

## 40周年の言葉

横須賀陸上リトルスクール40周年記念誌より抜粋(2013～2022年)

- 横須賀陸上リトルスクール 40 周年、並びにジュニアスクール 38 周年を迎えて  
横須賀市陸上競技協会 会長 三縄 保
- 10年後の50周年に向けて  
横須賀市陸上競技協会 普及部長  
横須賀陸上リトル・ジュニアスクール 校長 田中 俊郎  
(前校長、現在は 2023 年よりスクール顧問)



### 横須賀陸上リトルスクール 40 周年、

### 並びにジュニアスクール 38 周年を迎えて

横須賀市陸上競技協会 会長 三縄 保

スクール生と赤色シャツスタッフの笑顔が不入斗グラウンドの青色舗装、フィールドの良く刈り込まれた緑に映えます。

昭和 57 年にスタートしてから平成、令和と三つの時代を経て横須賀リトルスクールが 40 歳になりました。

今年も定員を上回る入校生を迎え、スタッフ登録も保護者も含めると5百名近くになります。

ここまで発展できましたのは、創立時の関係者並びに歴代の校長先生はじめ、一緒に汗を流してきたスタッフの方々、行政関係者のお陰であり、心から感謝し御礼申し上げます。

令和 4 年になり、子ども達のスポーツ振興を巡り、今まで行われていたある競技の全国大会の一部が開催されないことになりました。

様々なことが報道されましたが、その団体は「小学生の大会においても行き過ぎた勝利至上主義が散見されるところであります。心身の発達途上にあり、事理弁別の能力が十分でない小学生が勝利至上主義に陥ることは、好ましくないものと考えます」と言っています。

私は日頃からこうしたことは、子どもだけの問題では無く、子どもを取り巻く指導者や保護者そして競技に携わる関係団体の問題、大きく言えば、日本の健全なスポーツ振興をいかに進めるかということだと考えています。

オリンピックの為末大さんも、「心身の発達段階に見合った指導をしないと将来を見据えたものにはなりにくい」と言っています。

その点で、横須賀リトル・ジュニアスクールは、基本方針を『子ども達の「走りたい」、「運動したい」という願いを主眼に置き、陸上運動の楽しさをそれぞれに体験させる。』として、至宝の「スクール指導要領」のもと、目的を達成するため、スクール生一人一人を大切にする配慮をしつつ、指導法の実践と研修を重ねています。

こうした永年の活動の成果は多岐にわたり、入校者の増加、スクール生個々の達成感や記録の向上・競技の結果だけに限らず、スクールの指導者になる OB・OG が多数おり、さらに公認ジュニアコーチの有資格者も増加傾向にあるなど、大変に嬉しいことです。

生涯スポーツの振興が言われてかなりの時が過ぎました。スクールが、これからはしばらくは続くと思われる少子高齢化の中で、身体を動かすことの基本の基である陸上競技の門戸をさらに開き、このすばらしいスポーツ文化を伝えていく役割は大変大きいといえます。

次の大きな節目である 50 周年に向け、益々の発展をお祈りいたします。

## 10年後の50周年に向けて

横須賀市陸上競技協会 普及部長

横須賀陸上リトル・ジュニアスクール 校長 田中 俊郎

(前校長、現在は 2023 年よりスクール顧問)

横須賀陸上リトルスクールは、昨年度末で創立 40 年が経過し、今年度は 41 期の活動を継続中です。初代校長若命勇治郎先生(1982～)、第2代三澤 岑先生(1984～)、第3代上村 公先生(1995～)、第4代馬淵 征男先生(2007～)の各先輩よりバトンを引き継ぎ、2013 年より 10 年間校長を務めております。

この 3 年間のコロナ禍を乗り越え、今日を迎えることができました。10 年後の 50 周年に向けて、過去 10 年間に重点的に取り組んだテーマを述べたいと思います。

### 1.参加者の増加への対応

開校後毎年 200 名程度だった入校者が、2007 年頃より急激に増加し、2010 年には 400 名を超すようになりました。定員 240 名を大幅に超えています。普及の観点から全員を受け入れています。このため、スタッフの増員が急務となり、スクール OB・OG と保護者にスタッフになっていただくことに注力してきました。その成果もあり、今年度は、OB・OG と保護者 40 名以上の皆様に協力を得ています。各スタッフが陸上競技と適度の距離感をもって、スクール活動にボランティアとして気持ちよく参加していただくことが大切と考えています。

### 2.指導内容の充実(12 項には、当スクールで運用している指導要領を記載しています)

ジュニア(3・4 年生)では遊びやゲームを取り込んだ楽しい活動に加え、走(50m・80m)・跳(幅)・投(ジャベリックボール投げ)の記録を目指す要素も取り入れています。4 年生の冬季には、5 年生へ移行を考慮し、走高跳も内容に加えています。リトル(5・6 年生)では、個々の児童の発達状況に大きな幅があることを考慮し、トラックシーズン中は 100m、冬期は 800m の記録を基準に 5 または 4 グループに分けて、きめ細かい種目別指導(ハードル・幅・高・短距離走・中距離走)を行っています。

記録へのチャレンジを意識させるため、定期的にスクール内記録会を実施するとともに、横須賀市選手権と横須賀市民体育大会の市内陸上競技大会へ参加しています。また、リトルの部の記録上位者は、神奈川県協主催の県大会に参加し、全国大会に出場する者もいます。

さらに、指導力の向上については、スクール内外の講習会に参加するとともに、毎年 2～3 名が、JAAF 公認ジュニアコーチの資格を取得しており、22 年度には合計 20 名になりました。

### 3.生涯陸上への取り組み

陸連が 2017 年に発表した「JAAF ビジョン:一人でも多くの人が陸上競技を楽しみ、そして関わり続けるために」に賛同し、生涯スポーツ実現のため、2017 年に登録団体として「横須賀リトル」を発足させました。当初は、公認審判員資格を有するスタッフが登録者となることから始め、現在はマスターズから高校生まで、多くのスタッフが登録者となり、競技者・審判員として競技会に参加しています。高校・大学卒業後にも競技を継続して、スクールの指導者や審判員として陸上競技に関与していただくことを目指しています。現在「横須賀リトル」登録者の年齢は、17～82 歳と幅広く、目標実現の可能性を感じています。

少子化により、小学生人口が減少傾向にあり、入校者は長期的には減少していくことは避けられません。実際に 2016 年をピークに入校者は減少していますが、陸上スクールの基本方針である「陸上運動の楽しさをそれぞれに体験させる」ことを目標に、さらなる指導内容の充実を目指したいと考えています。

最後になりましたが、陸上スクールの主催者である横須賀市と横須賀市陸上競技協会、また競技場運営関係者、市立横須賀総合高校、スクールにご参加いただいているスタッフと保護者の皆様に感謝するとともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。また、40 年誌を発行するにあたり、協賛をいただいた多くの団体・個人の皆様にお礼を申し上げます。